

24 仁淀川水系河川整備計画の推進

政策提言先 国土交通省

政策提言の要旨

- ・近年、気候変動の影響により、全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化していることから、今後は、気候変動の影響を加味した洪水を安全に流下させるための対策が必要。
- ・仁淀川水系では、気候変動の影響により河川流量が増加した場合においても目標とする治水安全度を確保するため、河川区域、集水域及び氾濫域での追加の対策をとりまとめた『流域治水プロジェクト2.0』を令和5年8月に策定。
- ・令和6年9月には、流域治水プロジェクト2.0を基に、『仁淀川水系河川整備計画』を変更し、整備に向けた準備が整った。
- ・住民の生命を守るため、整備計画に位置づけた洪水時の本川水位を低下させる下流部の河道掘削や堤防の粘り強い化など、本川の治水対策(ハード対策)の推進及び適切な河川の維持管理が重要。
- ・増大する豪雨災害の脅威に備え、河道掘削や堤防の強靱化などを加速化するための重点的な予算配分をお願いします。

【政策提言の具体的内容】

○仁淀川本川における国の抜本的な治水対策の推進

- ・仁淀川本川の主な整備メニュー<直轄事業>

①河道の掘削等、②侵食対策、③堤防整備、④堤防の強靱化

- ・仁淀川水系河川整備計画に基づく対策を実施することで、戦後最大洪水(昭和38年8月)に気候変動を加味(降雨量を1.1倍)した洪水が発生した場合でも浸水世帯数を0にすることが可能

【政策提言の理由】

- ・近年、気候変動の影響により、毎年のように全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化しています。
- ・仁淀川水系では、気候変動の影響により河川流量が増加した場合においても目標とする治水安全度を確保するため、河川区域、集水域及び氾濫域での追加の対策をとりまとめた流域治水プロジェクト2.0を令和5年8月に策定しました。
- ・河川の具体的な整備内容を定めた河川整備計画についても、流域治水プロジェクト2.0を基に、令和6年9月に変更し、整備に向けた準備が整いました。
- ・仁淀川下流域では、本川及び支川沿いに主要な市街地が形成されていますが、その地盤高は本川から離れるほど低くなっており、ひとたび氾濫が発生すると浸水深が深くなるため、多くの住民が命の危険にさらされています。
- ・住民の生命を守るため、いの町では3D都市モデルの構築により浸水リスクを可視化することなどによって住民の防災意識向上を図るといったソフト対策にも取り組んでいます。
- ・加えて、洪水時の本川水位を低下させる下流部の河道掘削などの推進や、いの町市街地で暮らす人々を守るための堤防の強靱化など、変更後の整備計画に位置づけた本川の治水対策を早期に実施すること及び適切な河川の維持管理といったハード対策も必要不可欠です。
- ・ハード、ソフト一体となった対策の推進のため、河道掘削や堤防強靱化などを加速化するための重点的な予算配分をお願いします。